

**Safe
Evacuation
Chair**

取扱説明書

セーフエバキュエーションチェア

**FORM TP-003
DATE 12/MAY/16
S.S.E.C**



この度はセーバー社製 セーフエバキュエーションチェアをお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。本器をご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読み下さいますようお願い致します。

お願い

1. この取扱説明書は大切に保管して必要な時にはご再読下さい。
2. ご使用になる方全員に適切な講習を行って下さい。
3. 右欄は必要事項の記録用にお使い下さい。
4. 日常の点検は確実に行って下さい。
5. 使用方法に関してお分かりにならない点がありましたら販売店、または弊社までお問い合わせ下さい。

製造番号

購入日

販売店

その他

 **FERNO**[®]
Japan

ファーノ・ジャパン・インク 日本支社

日本支社：〒101 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル4F
-0032 Tel：03-5820-4649(代) Fax：03-5820-4669
商品・技術：〒192 東京都八王子市下柚木528-1
センター -0372 Tel：042-677-6656(代) Fax：042-677-6603

はじめに

このマニュアルは使用、操作、メンテナンスなど一般的な内容を記しており、使用上全ての状況に当てはまるものではありません。このチェアの安全で適切な使用は使用者の裁量と判断にあります。

実際の使用の前に事前にトレーニングすることをお奨め致します。また、このマニュアルを大切に保管してください。中の「重要」事項は重大な事故等に繋がる可能性がある事を示しています。必ずご確認ください。

最大荷重は180kgです

チェアの使用制限

このチェアは床や階段を車椅子の状態にして歩行困難な要救助者を移送させるための機器です。このチェアは十分にトレーニングを行い力量のある使用者（介助者）らによる緊急時の使用に限定されています。

取扱上の重要事項



重要

- 180kgの最大荷重を超えて使用しないでください。
- 使用に際してはトレーニングを行った人のみが使用してください。
- 安全に使用するために、ベルトで固定された状態を維持できる方に使用してください。
- 要救助者を乗せた状態では機器から離れずにサポートしてください。
- 要救助者に怪我をさせる可能性もありますので素早いチェアのポジションの変更は避けてください。ハンドルはしっかり保持してください。
- 記述された定期的な機器の点検と適切なメンテナンスを行ってください。
- 頚椎、脊椎、骨折患者・傷病者などには使用を控えることをお奨めします。
- 不適切なメンテナンスは怪我や予期しない状況を引き起こします。このマニュアルに記載された方法にて行ってください。
- 不適当な交換部品や修理は怪我や予期しない状況を引き起こします。メーカーが許容した部品や修理を行ってください。
- 漂白剤、フェノール類、ヨウ素は損傷を引き起こします。これらの薬物を含むものは使用をしないようにしてください。
- 適切な箇所にオイルを注油してください。（詳細は6ページのメンテナンスを参照）
- 血液による感染について：血液による感染のリスクを減らすためこのマニュアルに沿ったメンテナンスを行ってください。

使用にリスクのある方

本器を使用し安全に移送させる事を考慮した場合、下記の方々にはリスクのある可能性のある方々です。使用に際しては十分に状況、状態を考慮し、使用するか否かをご判断ください。

- 目や耳、動きに難がある老人
- 避難に際し怪我をしている人や病気で苦痛のある人
- 不安定、混乱している人
- 妊婦
- 若い子連れの親子
- 身体に障害がある方
- 知的障害がある方
- 目の不自由な方、ぜんそく、心臓の悪い方、てんかん、糖尿病

使用者の条件

トレーニングを受けたチェアの使用者（介助者）は以下の条件を満たしていなくてはなりません

- 緊急時に冷静に対応できる
- 緊急時に機器を使用のための準備ができる
- 障害者に対して十分な補助ができる
- すばやく安全に避難できる
- 要救助者を機器使用後他の介助者に任せるまでケアに責任を持てる

使用上の注意事項



重 要

- 砂袋などの重りをのせた状態でマニュアルに沿って練習することを強くお奨めします。
- チェアは定期的に点検してください。
- 80kg以上の要救助者に使用する場合は2人の介助者での使用を助言します。状況により操作する上で必要であればそれ以上の介助者を要してください。
- 機器や介助者の安全性に関わりますので、使用する場所に障害物がなく器具の使用や介助者の妨げにならない状況で使用してください。
- 全ての使用者（介助者）はこのマニュアルをよく読み理解しなければなりません。
- トレーニングを受ける人は機器の使用の理解度を調べるためのテストを受けるべきです。
- トレーニング記録は保管されるべきです。1年に1度トレーニングをすることをお奨めします。
- 機器のスキー部に潤滑剤は塗らないでください。要救助者や使用者（介助者）に怪我をさせる可能性があります。
- 路面の湿気、水、雪、氷、破片は機器の異常な動きを起し使用者（介助者）に急な要救助者の重さの変化を引き起こす可能性があります。階段部分はきれいな乾いた状態を確認してください。
- 階段部分の破片は取り除いてください。使用の障害となります。
- 動かす場合は要救助者に声を掛けてから行ってください。
- 要救助者にはベルトを必ず装着してください

各部名称



使用方法

1. 使用準備

CD内の「開閉の方法」の動画も併せてご参照ください

- ①セーフエバキュエーションチェア（以下チェア）
を壁掛けより取り外します。



- ②チェアを床に立て足でフットレストバーを抑えて
ハンドルをロックが掛かるまで引き出します。

- ③自在キャスターのフレームを手前に引き出します。
（ガスダンパーが伸びをアシストします）



- ④ベルトを外し、背中部とシート部を開きます。

- ⑤閉じる時は、上記の逆を行います。



2. 要救助者をチェアに

CD内の「ベルトの固定」の動画も併せてご参照ください

- ①要救助者をチェアに座らせます。要救助者の足を
フットレストバーに置き胸のストラップで固
定します。

- ②頭部のシートを患者の頭の位置にスライドさせ
て合わせストラップを使用し固定します。



使用方法

2. 階段移送

CD内の「階段移送の方法」の動画も併せてご参照ください

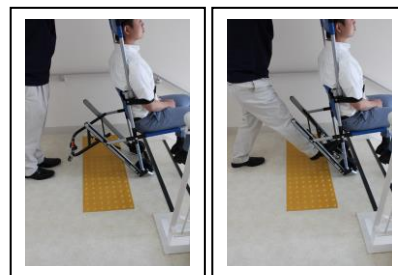
要救助者の体重が80kg以上の場合は2人以上の介助者で使用することをお奨めします。使用方法はページ6P参照してください。

- ①チェアの前輪2輪が階段に対して直角になるようにし、一番上の階段部分まで押し出します。位置はフットレストバーが階段より出ないようにします。

また可能であれば2人目の介助者がチェアの前方で補助を行ってください。



- ②ハンドルの両サイドの部分を持ち、チェアを前方へ傾け、フットレストバーを床面に接地させ、自在キャスターのフレームを折畳みポジションになるまで押し込みます。



- ③押し込んだ後、前方へ傾けたチェアを少し手前に戻します。もち手は離さずに両サイドのハンドルからスライドさせながら上のハンドル部を持ちます。

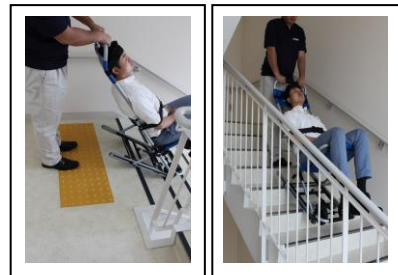
前輪2輪で慎重にスキー部が階段部に接するように慎重に押し出します。介助者はこの時しっかりとハンドル部を持ち支えます。



- ④階段部分を慎重に滑らせます。まっすぐに階段に対して垂直にして滑らせます。スキー部が階段部に全体的に接するようにして滑らせます。

(持ち手部分を少し下に押さえつけるようにするとバウンドせずにスキー部が階段に全体的に接ようになります)

上部のハンドル部分を自分の足元方向への押し付け具合で調整します。



- ⑤階段の踊り場ではハンドル部をやや持ち上げ、前輪が着くようにして方向を替え、階段部の一番上の部分まで押し出します。

自在キャスターを引き出し4輪走行でも構いません。(写真は4輪走行の場合)

- ⑥次の階段部は以前と同様の手順で行います。

- ⑦下の階まで到達した際は、チェアをやや前方に傾け自在キャスターを引き出します。引き出した後は4輪での走行を行います。



使用方法

4. 階段移送2

要救助者の体重が80kg以上の場合は2人以上の介助者で使用することをお奨めします。
また、要救助者の体重のほか、階段、その他の状況によっては補助をする人員を付けてください。

- ①2人で階段移送を行う場合はハンドル部を2人でしっかり持ち、要救助者の体重を支えます。
また可能であれば別の介助者がチェアの前方でアシストします。
その他、階段移送の手順は3.「階段移送」と同様です。

メンテナンス

1. チェアの点検内容等

以下の点検を使用する前かご使用にならない場合は1ヶ月に1度行ってください。

- ・チェアの全体的な清掃を行います。
- ・機器に曲がり、損傷、ボルト、ナットの脱落はないかを点検します。
- ・前輪（直進キャスター）、後輪（自在キャスター）の動きに異常がないかを点検します。
- ・ハンドルを伸ばした時にロックが掛かるか、椅子型にした時に異常がないかを点検します。
- ・自在キャスターの引き出し、折畳みに異常はないかを点検します。
- ・スキー部（ゴム部を含む）に亀裂、変形、異常なへりなどの異常はないかを点検します。また、実際に階段などで滑らせてみて異常がないかを点検します。
- ・シート部の裂け、縫製のほつれがないかを点検します。
- ・シート部がフレームにしっかり装着されているかを点検します。
- ・1ヶ月毎に金属と金属が擦れ合う部分・ヒンジ部（蝶番部）に注油します。

スキー部には絶対に注油をしてはいけません

定期的な清掃は感染のリスクを減らすだけでなく、機能的にも良好な状態に保つことができます。

2. チェアのメンテナンス

使用頻度にもよりますが、製品をよりよい状態に保つには定期的なメンテナンスが必要です。下記の要領に従って、以下のスケジュールを最低限とし、定期的にメンテナンスを行って下さい。使用頻度が多い場合は必要に応じて回数を増やして下さい。

また、スキー部は、消耗・経年劣化致しますので定期的な交換が必要です。

使用状況、保管状況にもよりますが弊社が推奨する交換時期は、2年に1度です。

しかし点検時に異常が見受けられた場合は直ちに使用を止め、交換をしてください。

メンテナンスの種類	必要に応じて	毎月	2年
消毒	●		
洗浄	●		
機能・試用点検	●	●	
注油		●	
スキー部品交換			●交換推奨

メンテナンスの際の資材の使用においては、その資材メーカーの使用書に従い使用してください。

▲ 重 要

不適切なメンテナンスは事故の原因となる可能性があります。このマニュアルに記載されたメンテナンスを行って下さい。

3. 消毒

消毒剤等を使用して本器の表面を清拭します。その際、本器に損傷等がないかを合わせて確認して下さい。消毒剤の取扱説明書に従って本器の表面を消毒し、消毒後、本器に変色等がない事を必ず確認して下さい。同じ要領で傷病者固定ベルト消毒を行い、消毒後に変色がない事を確認して下さい。

消毒剤に浸すことはお止めください。

4. 洗浄

洗浄はぬるま湯と中性洗剤を使用し、布や柔らかいブラシで行って下さい。洗浄後は水分を拭き取り、完全に乾かして下さい。漂白剤やフェノール剤、研磨剤や高圧洗浄機は本器にダメージが残る可能性がありますので絶対に使用しないで下さい。

保管について

壁掛け用ブラケットと専用カバーが附属されています。

ブラケットをご使用の際は壁に取り付けて、機器を折畳み、機器ハンドル上部を掛けて使用します。

カバーは右のように全体を覆い使用します。

- * ブラケットを取り付ける際のネジ等は壁の材質、形状によりますので附属していません。お近くのDIYなどでお求めください。



仕 様

	高さ	幅	奥行	重量	最大荷重
展開時	1 3 4 c m	5 3 c m	8 9 c m	1 1 k g	1 8 0 k g
折畳時	1 0 5 c m	5 3 c m	2 2 c m		

保 証

弊社保証規定により、ご購入日より 1 年間の保証を致します。



本書に記載されている以外の使用方法による破損、また改造したものを使用しての事故等については責任を負い兼ねますので十分ご注意ください。